

教 師 ノ ー ト

日付 2017年 2月12日

単元 詩篇と預言者

テーマ 主を信頼する

タイトル 主はわたしの羊飼い

テキスト 詩篇23篇

参照箇所

暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)
詩篇23:1

AG 日曜学校教案参照箇所
小下3巻4題10課

メモ(情報・例話など)

詩篇150の詩の中でも23篇は、これまで世界中で最も愛されてきた詩の1つと言えるでしょう。1節の「主は私の羊飼い」は、この詩全体のテーマです。「羊飼い」の例えを使うことで、世界中のどの時代の人にもわかりやすく、シンプルかつ奥深く、「いつも守り・与えてくださる神の愛への信頼と感謝」を表現しています。荒野をさまよったイスラエルの民を守り導いてくださった神への信仰が、この詩の背景にあることは言うまでもありません(詩篇106参照、申命記8:2~4など参照)。また、「良い羊飼い」(ヨハネ10:11)であるイエスを理解する上でも、詩篇23は非常に助けとなります(1ペテロ2:25、5:4参照)。

□導入 興味を起こす質問をしましょう。

例1: あなたにとって、未来に起こりそうなことで不安なことはなんですか(病気、事故、親の死、テスト、イジメ、など)? また、自分の足りないところを見てクヨクヨしてしまうのはどんなときですか(学力、運動能力、身長、お金、など)? 将来の危険からあなたをいつも守り、必要なものは全て与えると約束してくれる人がいると思いますか?

例2: 羊飼いの仕事ってどんなことか分かりますか?(エサをあげる、草のある場所に連れて行く、オオカミから守る、など)。あなたには、羊飼いが必要ですか?

□ポイント1 神さまが必要なものを与えてくださるので、私たちはいつも満ち足りることができます(1-3)

聖書の中で、神を羊飼いに、人間を羊に例えた箇所は数多くありますが、ここでは特に、主は「私の」羊飼いと表現されています。神は私たちと個人的な関係を持ってくださるのです。羊は、おとなしく、従順ですが、弱くて(外敵に対してほとんど無力)、道に迷いやすいのが特徴です。神を羊飼いに例える場合、人間は羊です。人間も、羊のように無力であることを自覚すべきです。神に依存しなければ生きていけません。しかし、全能の主が守り養ってくださる限り、私たちは乏しいことはありません。羊飼いは、羊が食べるためのおいしい草が生えている場所(緑の牧場)に連れて行き、羊が安全に草を食べられるように、配慮します。また羊飼いは、羊を「いこいの水のほとり」にも導き、心と体をうるおし、元気を回復させてくれます。主は、私たちを正しい道(救いに至る道)に導いてくださいます。主はまさに、私たちのたましいを生き返らせてくださる救い主です。私たちが幸せになるように導いてくださいます。

☞ 子どもたちにとっての、困難・悩み・疲れ・ストレスは、おとなのそれとは違います(例えば、いじめ・仲間はずれ・悪口、変なあだ名で呼ばれる、分数の計算ができない、マラソンが苦手、宿題が多すぎる、先生が怖い、両親の帰宅が遅い、中学生になること・・・など)。子どもたちは、常に他者との競争・比較にさらされています。また、いつも親・先生・友だちなどの評価を気にしているかもしれません。いじめ・仲間はずれ・悪口などが、いつ自分の身にふりかかって来るかわからないと不安に思っているかもしれません。子どもにとって、心も体も安心できる環境が失われつつあります。しかし教会は緑の牧場(安全・心

の食べ物で養われる・リラックスできる・のびのび遊べる)です。また教会は、いこいの水のほとりです(聖霊が疲れと渴きをいやしてくださる・平安とゲンキをくださる・心も体もリフレッシュできる)。

□ポイント2 神さまがともにいてくださるので、私たちは何も恐れる必要がありません(4)

人生には、困難・悩み・苦しみにあうことがあります。とても悲しい出来事や、どんなにがんばっても解決できない問題が起こることがあります。「死の陰の谷」とは、死が押し迫るような恐怖のことでしょう。どんな恐ろしい悪が迫ってきても、何も恐れる必要はありません。主が私たちとともにいてくださるからです。実際に、パレスチナには狭く陰しく暗い谷があり、羊が猛獣に襲われやすい場所であったと思われまます。そのため、羊飼いは、通常2つの道具を持っていました。1つは「むち」で、猛獣を追い払うため、もう1つは「つえ」で、羊をガイドしコントロールするためです。同様に神は、私たちが危険から守り、正しい道に導いてくださいます。

□ポイント3 これからもずっと、神さまが私たちを守り助けてくださいます(5-6)

5節には、さらに具体的に、神が私たちをどのように守り助けて下さるかが書かれています。敵から逃げて、だれかの家に逃げ込んで、かくまって保護してもらった人と、その家の主人を連想して読むとよく理解できるでしょう。ダビデは、迫り来る敵アブシャロムから逃げているとき、バルジライら3人に、豊かな食事でもてなされました(II サムエル17:27-29)。神は、敵がいるようなところでも、安心して食事できるほど、確実に保護してくださいます。ダビデもその時は、うれしくて感激したでしょう。「油をそそぐ」のは、主人が客人に注ぐもので、喜びの表現です。「杯があふれている」ということは、主に歓迎されていて、神と親しい関係であり、その人生が祝福で満たされているという、感謝の表現です。6節でも歌われているように、神とともにいると、神の恵みはいつもいっぱいです。敵から追われるのではなく、愛と恵みに追われるのです！そして私たちはずっと神の家族にさせていただけるのです。

□結論 神さまを信じている人は、乏しいことも恐れることもありません 暗唱聖句を読み上げます

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

例1:あなたは、イエスさまを信じても恐れや心配を持ち続けていませんか？確かに「災いを恐れませぬ」というのは、災い(事故・病気)やキライなもの(テスト・マラソン大会など)がなくなるわけではありません。でも、神さまがいるからダイジョウブ！と今、信仰告白をしよう！イエスさまの愛を信頼すれば、何も怖くないよ。未来に起こるかもしれないことを心配したり、自分に足りないものを見てクヨクヨしたりしないで、イエスさまが何とかしてくれるって信じよう！そうすれば、喜びと勇気と希望がわいてきます。もちろんそれだけではなく、本当にイエスさまが、ミラクルパワーで、あなたを守り、必要なものはぜんぶ与えてくださいます。神さまを信頼する人には、必ず神さまの祝福があります。

例2:今あなたが心の中に持っている不安やクヨクヨの原因を、紙に書くか、教会の先生やお友だちに言ってみよう。そして「私は乏しいことはありません。わざわざを恐れませぬ。主が私とともにおられますから」と、祈ってみよう。

例3:神さまがいつも守ってくれている！いつも必要を満たしてくれている！って、感じるができない人もいますでしょう。その人は①神さまを体験できるように、どんどん求めていこう！どんなことでも大胆に祈ろう。ミラクルを体験すると、それが信頼と確信に変わります。②日常の恵みに「気付く」ようになろう！「今月は家族がだれもカゼをひかなかった」とか、「学校に一度も忘れ物をしなかつた」って気付いた時に、「神さまありがとう」ってお祈りしよう！神さまがいつも守り・必要を満たしてくれている！って、感じるができるようになるよ。

例4:イエスさまは羊に命を与えるために、命を捨てた羊飼いです。あなたはすでに「永遠の命」という一番大切なものをいただいています。それさえあれば、不安や心配はいりませぬ。それにあなたはいつまでも神の家族です。いつも神さまを礼拝することができます。そこで心のエネルギーとやすらぎを得ることができます。疲れと渴きはいつも満たされ、リフレッシュされます。喜んでイエスさまとともに歩むなら、愛と恵みがあなたを追いかけてきます！